

令和7年度 産山学園重点取組事項（※5段階評価）

方向性	具体的実践事項	評価基準の目安	1学期	2学期
1 学 校 信 づ 頼 く さ れ	1-1 不祥事防止研修の計画的な実施	ボトムアップ研修を年10回以上実施+不祥事0		
	1-2 学び続ける教職員集団の育成	管理職との「対話」を通した、また、自己研鑽のための研修受講		
	1-3 働き方改革の推進	時間外在校時間月45時間以内75%以上		
	1-4 五者連携による「うぶやま学」の実施	地域人材の積極的かつ効果的な活用		
	1-5 学校運営協議会への児童生徒の参画	児童生徒の提案や参加の場を設定		
	1-6 「親の学び」プログラム等を活用した家庭教育支援	懇談会等での活用促進		
2 一 確 か な 学 力 の 育 成	2-1 義務教育学校の特性、教師の専門性を活かした授業の充実 児童生徒を「学びの主体」とした「産山型学習」の充実	・教科担任制による授業の充実 ・学校質問紙「自分で考えたり、自分から取り組む学習活動を設定している」教員9割以上 ・阿蘇の指標（①自分で考え自分から取り組む ②工夫して発表 ③授業の内容が分かる ④勉強が好き）で前年度より向上		
	2-2 基礎・基本及び定着確認の徹底 誰一人取り残さない学びの保障 家庭学習への主体的な取組の推進	・学校質問紙「定着確認を行い個に応じた指導の充実を図っている教員」9割以上 ・阿蘇の指標⑤（県学調 評定1（小）、評定1、2（中）の割合、全学調 正答率3割未満の割合）前年度から減少 ・「産山村家庭学習の手引き」の活用		
	2-3 一人一台端末を使用し、児童生徒が自分の理解度に合わせて課題に取り組む場面の設定（個別最適な学び）	週3回以上の場面設定		
	2-4 「ヒゴタイイングリッシュ」（英語教育）の充実	・9年間を通した教科担任制による授業の充実 ・「英語授業づくりプロジェクト」の活用		
	2-5 学校図書館の積極的活用と読書習慣形成の推進	・読み聞かせ活動の充実を図り、読書への興味関心の向上を図る ・学習資料としての活用を促進する		
	2-6 保育園との効果的な接続	スタートカリキュラムの見直しと「わくわくキッズ」の充実		
	2-7 キャリア教育で目指す資質・能力や態度を明確化・共有化し、実践につなげる	自己肯定感や自己有用感を育み、夢や目標に向かって努力する態度と基礎的・実践的な学力向上を図る		
	学力向上検証サイクルの確実な実施 「チャレンジ学習」への主体的な挑戦	各種学力調査の分析とそれに基づく授業改善 各種検定の積極的な受験と合格率の向上		
3 一 豊 か な 心 の 育 成	3-1 すべての子供が安心して過ごせる「学級・学園風土」づくり	・県学調(i-check)の「学校風土」が前年度より向上 ・心のアンケート「学校が楽しい」の割合90%以上		
	3-2 子供の「心に寄り添った指導」の徹底	・1人1台端末等を活用した「心の健康観察」の実施 ・定期的な教育相談や「心のアンケート」の結果を活用した対応		
	3-3 不登校の未然防止と解消	・関係機関と連携した情報共有と心に寄り添った対応 ・「愛の1・2・3運動+1」の実施と新規不登校0		
	3-4 「いじめを許さない雰囲気」の徹底	心のアンケート「いじめを許さない雰囲気がある」の割合75%以上		
	3-5 特別の教科「道徳」の授業の充実	相互の授業参観、地域や保護者への授業公開、校内研修の実施		
	3-6 「生徒指導心得」の徹底	「生徒指導心得」の積極的理解と主体的な行動につなげる指導の工夫		
	自己肯定感、自己有用感を育む指導と評価	・「認め、褒め、励ます」指導の徹底と即時評価 ・主体性を育む児童生徒会活動、学校行事の実施		
	体験活動を大切に、自己の生き方を考える「うぶやま学」の実施	地域のひと、こと、ものに触れる体験活動を通して豊かな情操を育む		
ヒゴタイ交流を通した異文化理解	交流により国際理解と国際交流を行い、互いの文化を理解し、尊重し合う態度を育む			
体 一 た く ま し い の 育 成	4-1 体力向上の視点と児童生徒が「楽しい」と感じる体育指導の充実	・新体力テストの前年度からの結果の向上 ・専門性を生かした体育の授業の内容の充実		
	4-2	・「早寝・早起き・朝ごはん」ができていない児童生徒の割合の向上 ・心のアンケート「家庭での情報機器の利用 平日3時間以上」の児童生徒の割合の前年からの減少		
	4-3 行政、家庭と連携した基本的な生活習慣の改善	う歯治療率の前年度からの向上		
	4-4 歯と口の健康に関する指導及びう歯治療の家庭への啓発	・児童生徒の事故0 ・実践的な避難訓練の実施		
	4-5 安全教育及び管理・事故防止の徹底 実践的な防災教育・避難訓練の実施 「産山型部活動」へのスムーズな移行	「産山型部活動」移行に向けた関係機関と連携した具体的取組の実施		
人 権 推 進	5-1 教職員の人権問題についての基本的認識を深めるための研修の実施	年間3回以上実施		
	5-2 児童生徒の実態に基づいた自他の人権を守る実践的な行動力を育むための指導方法等の工夫・改善	県学調(i-check)の⑤思いやり（人間関係構築力）の肯定率が全国及び県平均を上まわる		
特 別 の 支 援 教	6-1 特別支援教育コーディネーターを中心とした校内委員会の充実	①具体的な支援方法の検討、②共通理解と支援体制づくり、③個別の教育委支援計画等の作成及び活用 について年5回以上実施		
	6-2 教育委員会及び専門機関との連携	巡回相談員を活用し、適切な就学指導及び定期的な学びの場の検討を行う		
	6-3 本人・保護者との定期的な面談等の実施	年間3回以上実施し、合意形成のうえでの「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の作成・実践及び確実な引き継ぎを行う		

5 十分できている 4 ある程度できている 3 どちらともいえない 2 どちらかというのでできていない 1 できていない